

ちよんどうそしんがで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩



昔ながらそこに住む人、新しくこの町で暮らす人。新旧の住民が混在する安永地区では、地域の温かいコミュニティが育まれています。冬の寒さは続きますが、温かく着込んで、あちらこちらと安永地区を散歩しました。

どんどやの櫓を組む

まだまだ寒さは募りますが、一方でウメの花便りも聞こえ、待ち遠しい春を感じさせてくれます。

さて、去る1月9日の日曜日。安永地区の秋津川の南方に広がる田んぼで、「どんどや」が行われました。主催は「安永地区まちづくり協議会」。前日から約80人の地区の人たちによって、櫓組みの準備が行われました。竹や枯れ木で櫓を組み、その中にはワラやカヤなどの燃えやすいもの

が詰められます。櫓は三角すいに組まれ、頂点には大きな孟宗竹が、空を突くように飾られます。

「どんどやは安永地区の大切なイベントです。また、子どもたちに残したい風習でもあります」と話すのは、2町内区長で安永地区総区長の江森勝喜さん(84)です。

櫓の準備に汗を流す人たちの中に、ベトナム出身の外国人技能実習生、ヴォン・ヴァン・フォンさん(23)とチャン・コック・ヴィエツトさん(23)がいました。彼らは3町内区長の石田稔さん(59)の会社に勤務して



上／どんどやの前日から準備に大忙しの安永2町内区長の江森さん
右／1月9日行われたどんどやに集まった安永地区の皆さん



どんどやの火を見守っていた益城町消防団第2分団第6班の皆さん



左／参加者にカップ麺を提供していた、安永地区婦人会のキャンディーズのお三方。左から井手幸代さん(68)、守山久美子さん(69)、内田福子さん(66)